

## 応用数学第一 中間確認用問題集

答えのみでなく必要十分な式展開を書くこと。

### 1 フーリエ級数展開

以下の周期  $2\pi$  の周期関数をフーリエ級数展開せよ。

(1.1)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = x$

(1.2)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = \frac{\pi}{2} - |x|$

(1.3)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = |x|$

(1.4)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = x^2$

(1.5)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = \text{sign}(x)$ . ただし  $\text{sign}(x)$  は  $x > 0$  で 1,  $x < 0$  で -1 となる関数.

(1.6)  $-a < x < a$  の範囲で  $f(x) = 1$ , それ以外で  $f(x) = 0$ . ただし  $0 < a < \pi$

### 2 複素フーリエ級数展開

以下の周期  $2\pi$  の周期関数を複素フーリエ級数展開せよ。

(2.1)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = x$

(2.2)  $-\pi$  から  $\pi$  の範囲で  $f(x) = x^2$

(2.3)  $-a < x < a$  の範囲で  $f(x) = 1$ , それ以外で  $f(x) = 0$ . ただし  $0 < a < \pi$

### 3 フーリエ級数展開の直交基底

(3.1) 基底関数  $\cos(\frac{2\pi nx}{T})$  と  $\sin(\frac{2\pi mx}{T})$  が直交していることを示せ.

(3.2) 基底関数  $\cos(\frac{2\pi mx}{T})$  と  $\cos(\frac{2\pi nx}{T})$  が  $m \neq n$  を除き直交していることを示せ.

(3.3) 基底関数  $\exp(j\frac{2\pi nx}{T})$  が直交基底を構成していることを示せ.

### 4 フーリエ級数展開の性質

2つの同じ周期  $T$  をもつ周期関数  $f(x)$ ,  $g(x)$  の複素フーリエ級数展開が以下のように与えられるとする.

$$c_n = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \exp(-j\frac{2n\pi}{T}x) dx \quad d_n = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} g(x) \exp(-j\frac{2n\pi}{T}x) dx$$

(4.1) この2つの関数の畳込み積分

$$h(x) = \frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(\tau) g(x-\tau) d\tau$$

のフーリエ級数展開が  $e_n = c_n d_n$  で与えられることを示せ.

(4.2) 以下のパーセバルの等式を示せ

$$\frac{1}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \|f(x)\|^2 dx = \sum_{n=-\infty}^{\infty} \|c_n\|^2$$

## 5 フーリエ変換

次の関数のフーリエ変換を求めよ。ただし  $a > 0$  とする

$$(5.1) f(x) = \exp(-ax)u(x) = \begin{cases} \exp(-ax) & x > 0 \\ 0 & x < 0 \end{cases}$$

$$(5.2) f(x) = \exp(-a|x|)$$

$$(5.3) f(x) = \begin{cases} 1 & \|x\| < a \\ 0 & \|x\| > a \end{cases}$$

$$(5.4) f(x) = \exp(-ax^2)$$

## 6 フーリエ変換の基本的性質

$f(x)$  のフーリエ変換が  $F(\omega)$  で与えられる時、次の関数のフーリエ変換を求めよ

$$(6.1) f(cx)$$

$$(6.2) f(x) \exp(j\omega_0 x)$$

$$(6.3) f(x - x_0)$$

$$(6.4) \frac{df(x)}{dx}$$

$$(6.5) \overline{f(x)}, \overline{f(-x)}$$

$$(6.6) F(x), F(-x)$$

## 7 デルタ関数とフーリエ変換

(7.1) デルタ関数のフーリエ変換を導出せよ。

(7.2) デルタ関数の微分のフーリエ変換を導出せよ。

(7.3) デルタ関数を用いて1(定数)をフーリエ変換せよ

(7.4) デルタ関数を用いて  $\exp(j\omega_0 x)$  をフーリエ変換せよ

(7.5) デルタ関数を用いて  $\cos(\omega_0 x)$ ,  $\sin(\omega_0 x)$  をフーリエ変換せよ

## 8 フーリエ変換の性質

(8.1)  $h(x) = \int_{-\infty}^{\infty} f(\tau)g(x - \tau)d\tau$  から  $H(\omega) = F(\omega)G(\omega)$  を導出せよ

(8.2)  $H(\omega) = F(\omega)G(\omega)$  から  $h(x) = \int_{-\infty}^{\infty} f(\tau)g(x - \tau)d\tau$  を導出せよ

(8.3)  $g(x) = \overline{f(-x)}$  の場合からパーセバルの等式  $\int_{-\infty}^{\infty} |f(x)|^2 dx = \frac{1}{2\pi} \int_{-\infty}^{\infty} |F(\omega)|^2 d\omega$  を導出せよ